



verification service

VERISERVE

株式会社 **ベリサーブ**

第9期 中間報告書 2009年4月1日～2009年9月30日

私たちの使命は、市場に投入されるIT関連製品及びシステムの検証を通じて、より快適なIT社会づくりに貢献することです。

●●● Top Message トップメッセージ

株主の皆さまにおかれましては、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2010年3月期第2四半期累計期間の業績につきまして、ご報告させていただきます。

この第2四半期累計期間は、大変厳しい経営環境となり、売上高24億50百万円、営業損失42百万円、四半期純損失35百万円となり、当初予想を上回るものの、誠に遺憾ながら前年同期を下回る結果となりました。

昨今の経済環境はマスコミの報道などの通りでございますが、製造業におけるコスト削減、企画・開発・製造・販売の各段階における最適化は、急速かつ大規模に進みつつあります。これは日本国内だけにとどまらず、グローバル競争に生き残るために最適な環境を作り出そうとする取組みだと考えております。当社顧客におけるグローバル化も急速に進んでおり、従来の枠組みにとらわれない、変化に対応できる企業だけが生き残って行くような状況だととらえております。

当社においても、国内だけでなく、海外に積極的に目を向けていく必要があると痛感しております。

一方、製品の変革も進んでおります。例えば自動車です。動力源がエンジンからモーターへ変わると、今までとは違った視点も必要となってまいります。そのような変化に対応するには、新しい技術投資は不可欠であるとメーカーではとらえています。その中で、制御などをつかさどるソフトウェアの役割は、より重要になってくるものと考えられます。そこには、ソフトウェアの品質を確保するための技術や役割も不可欠なはずです。

当社といたしましては、従来の国内での営業はもとより、グローバルな視点でのサービス提供も視野にいれてまいりたいと考えております。まさに来るべき新たな開発サイクルに備えた仕組みづくりを行ってまいり所存でございます。

最後に、中間配当でございますが、厳しい環境ではありますが、株主の皆さまへの安定的かつ継続的な配当をしてまいるのが当社の経営方針であり、当中間期においては、1株当たり500円の中間配当を行わせていただきます。

厳しい経営環境はまだ続くと考えておりますが、通期では黒字化を図れるよう、役員、社員一同力を合わせ努力してまいります。引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年12月



代表取締役社長
浅井 清孝

●●● Review of Operations 当第2四半期累計期間の概況

当社を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況と言えます。検証対象製品を分野別に見てみますと、携帯電話分野では、国内における携帯端末の販売方法は多様化し、これにより買い換えサイクルが長期化し、新規端末販売台数が影響を受け、成熟化した国内においては厳しい環境にあります。ITS関連分野においては、急減速した自動車販売にも、エコカー減税などの政策が後押しし、回復の兆しが見えつつあります。加えてエコロジーに対応した製品への開発姿勢を強めております。また、家電分野においても、地上波デジタル放送への対応とともに、エコポイントなどの政府の景気刺激策が、薄型テレビなどの買い換え需要を喚起し、新興国需要とともに下げ止まりをみせております。しかしながら、国内消費者の景況感は一層厳しさを増

しており、いずれの分野も開発から生産、販売に至る製品サイクルの最適化、コスト低減は急務となっております。

このような中、当社ではサービスコストの見直しを行い、顧客ニーズに対応していくとともに、北米及び欧州などの他に新興国をターゲットとした検証サービスのグローバル化を図る必要が出てきております。当社では、海外における顧客ニーズの動向を調査し、事業拡大の検討をすすめ、サービスの多角化を志向しております。

また、当社は従前より中長期の目標として、ソフトウェアのテスト・評価といった検証事業の「産業化」を目指しております。その一環として、ソフトウェアにおける「検証の重要性」を社内・外にアピールしていくための「システム検証セミナー」を開

催しており、本年度も第2四半期に開催し、コスト削減を行いながら品質向上を目指す企業などから500名近い方々の参加をいただき、ソフトウェア開発における検証の必要性や知名度向上に努めております。

一方、販売費及び一般管理費の削減を行いながら、競争

力の強化に努めてまいりました。60名余りの新卒採用した検証技術者については、第1四半期に集中的な教育をはかり早期の戦力化をすすめてまいりました。他方、次年度採用などについては、新卒採用数の見直しをすすめております。

売上高

2,450

百万円

前年同期比 38.5%減

営業利益

△ 42

百万円

前年同期比 327百万円減

四半期純利益

△ 35

百万円

前年同期比 185百万円減

純資産

4,425

百万円

前期末比 1.7%減

●●● Review by Segments 部門別の概況

製品検証サービス



98.1
%

売上高

2,404百万円

(前年同期比38.2%減)

開発支援検証サービス

2,349百万円 (前年同期比38.6%減)

認定支援サービス

17百万円 (前年同期比38.2%減)

検証情報サービス

38百万円 (前年同期比0.6%減)

当社の主力事業であります製品検証サービスのうち、9割強をしめる開発支援検証サービスは、主力分野の検証対象製品に対するサービスが前述のように推移したことにより、売上高は2,349,166千円(前年同期比38.6%減)となりました。

また、認定支援サービスにつきましては、米国マイクロソフト社の承認を必要とするDesigned for Windows®ロゴ取得の支援を主力としたサービスで、新しいオペレーティングシステムへの移行に伴う周辺機器などの検証ニーズが出始めておりますが、売上高は17,796千円(同38.2%減)となりました。

検証情報サービスは、IT機器どうしを組み合わせ使用した場合の動作確認情報の提供及びITプラットフォームテストセンターを時間単位で提供するサービスであり、売上高は38,019千円(同0.6%減)になりました。

以上の結果、製品検証サービスの売上高は2,404,982千円(同38.2%減)となりました。

セキュリティ検証サービス

0.2
%

売上高 **4** 百万円 (前年同期比86.3%減)

セキュリティ検証サービスは、顧客の社内システム及びインターネット経由で公開するホームページ、あるいは電子商取引用のインターネットシステムに対し、負荷の許容量や脆弱性を検証するサービスであり、企業における経費引き締めなどの影響で案件が減少し、売上高は4,262千円(前年同期比86.3%減)となりました。



その他のサービス

1.7
%

売上高 **41** 百万円 (前年同期比35.5%減)

その他のサービスにつきましては、前記事業部門に分類されない検証業務や顧客企業内でのシステムインフラの構築やシステム開発及び社内システム保守・運用に関するサービスを提供しております。

当社ではシステム検証業務に注力し、新規のシステム開発等を行っていないため、売上高は41,525千円(前年同期比35.5%減)となりました。

●●● Financial Statements 財務諸表

四半期貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

	当第2四半期 (2009年9月30日現在)	前期 (2009年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	4,488,596	4,709,757
固定資産	402,393	401,578
有形固定資産	101,692	112,986
無形固定資産	92,782	75,633
投資その他の資産	207,918	212,958
資産合計	4,890,989	5,111,336

(単位:千円)

	当第2四半期 (2009年9月30日現在)	前期 (2009年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	460,863	604,018
固定負債	4,140	4,846
負債合計	465,004	608,864
純資産の部		
株主資本	4,425,985	4,502,471
資本金	786,018	780,944
資本剰余金	769,768	764,694
利益剰余金	2,870,199	2,956,832
純資産合計	4,425,985	4,502,471
負債純資産合計	4,890,989	5,111,336

四半期損益計算書(要旨)

(単位:千円)

	当第2四半期 (2009年4月1日～2009年9月30日)	前第2四半期 (2008年4月1日～2008年9月30日)
売上高	2,450,770	3,986,313
売上原価	1,791,156	2,837,207
売上総利益	659,613	1,149,105
販売費及び一般管理費	701,816	863,405
営業利益又は営業損失(△)	△ 42,202	285,699
営業外収益	13,385	9,248
営業外費用	4,457	2,718
経常利益又は経常損失(△)	△ 33,274	292,229
税引前四半期純利益又は 税引前四半期純損失(△)	△ 33,274	292,229
法人税、住民税及び事業税	9,153	143,000
法人税等調整額	△ 6,880	△ 1,037
四半期純利益又は 四半期純損失(△)	△ 35,547	150,267

四半期キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

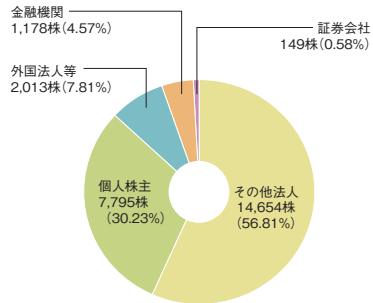
	当第2四半期 (2009年4月1日～2009年9月30日)	前第2四半期 (2008年4月1日～2008年9月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	101,460	△ 58,870
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 66,522	△ 34,864
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 41,438	△ 88,869
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 2,970	△ 1,432
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 9,469	△ 184,036
現金及び現金同等物の 期首残高	3,560,333	3,673,302
現金及び現金同等物の 四半期末残高	3,550,864	3,489,265

(注) 各計算書類の記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

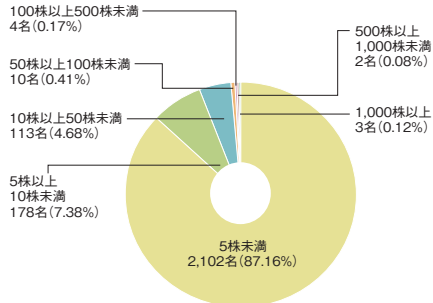
●●● Stock Information 株式の状況 (2009年9月末現在)

- 発行可能株式総数 64,000株
- 発行済株式総数 25,789株
- 株主数 2,412名

所有者別株式分布状況



所有数別株式分布状況



第9期の中間配当について

安定的かつ継続的な配当を行いつつ、経営基盤の確保ならびに今後の事業展開などの内部確保を勘案し、当中間配当は下記のように実施いたします。

1株当たり **500円**
 配当総額 **12,894千円**

大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
株式会社CSKホールディングス	14,500	56.23
メロンバンク エヌエー トリーティー クライアント オムニバス	1,588	6.16
ベリサーブ従業員持株会	1,079	4.18
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	550	2.13
浅井 清孝	500	1.94
ビーエヌピー パリバ セキュリティーズサービスルクセンブルグ ジャスデック セキュリティーズ	291	1.13
岩崎 泰次	177	0.69
加藤 一夫	130	0.50
イーエフジー バンク	108	0.42
高橋 豊	80	0.31

Company Profile

会社概要 (2009年9月末現在)

商号	株式会社 ベリサーブ VeriServe Corporation
本社所在地	〒160-0023 東京都新宿区西新宿六丁目24番1号 西新宿三井ビル14F
設立	2001年7月24日
資本金	786百万円
従業員数	339名
事業内容	製品検証サービス: IT関連製品(ハードウェア、ソフトウェア) のシステム検証 セキュリティ検証サービス: ネットワークシステムのセキュリティ分野 での検証 その他のサービス

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 電子公告アドレス： http://www.veriserve.co.jp/ir/epr/
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券・銘柄コード	3724

..... IRサイトのご紹介

より詳細な財務情報をお求めの方は、当社IRホームページをご覧ください。決算短信や有価証券報告書など、IRに関する情報を提供しています。

<http://www.veriserve.co.jp/>

株式会社 ベリサーブ

〒160-0023 東京都新宿区西新宿六丁目24番1号 西新宿三井ビル14F
TEL 03-5909-5700(代表)

